

モモのナシマルカイガラムシ・シロカイガラムシ類の発生状況と防除対策

令和8年1月14日

福島県病虫害防除所

1 ナシマルカイガラムシ

(1) 発生状況

本年、県北・県中・会津地方の複数のモモほ場において、ナシマルカイガラムシの寄生が確認されています。本種は、枝幹部に寄生し樹液を吸汁するので、樹勢が衰え結果枝や芽の枯死が発生し、シロカイガラムシ類と同様に果実にも被害を及ぼします。

また、山梨県では、過去にモモでのナシマルカイガラムシの発生面積の拡大が問題となったと報告されており、本県でも今後のモモでの発生拡大が懸念されます。

(2) 防除対策

ナシマルカイガラムシの介殻は黒色～灰白色をしており、寄生を見逃しやすいため、せん定作業時などに発生状況をよく確認しましょう（図1～3）。シロカイガラムシ類の介殻は白色であり（図4）、両者を区別するポイントです。特に、リンゴやナシの隣接園では注意が必要です。

発生部位は見つけ次第、ワイヤーブラシなどで丁寧にこすり落としましょう。薬剤防除は、県病虫害防除指針や地域の防除暦を参考に、休眠期や生育期の防除を徹底しましょう。



図1 ナシマルカイガラムシの骨格枝への寄生



図2 ナシマルカイガラムシの結果枝への寄生

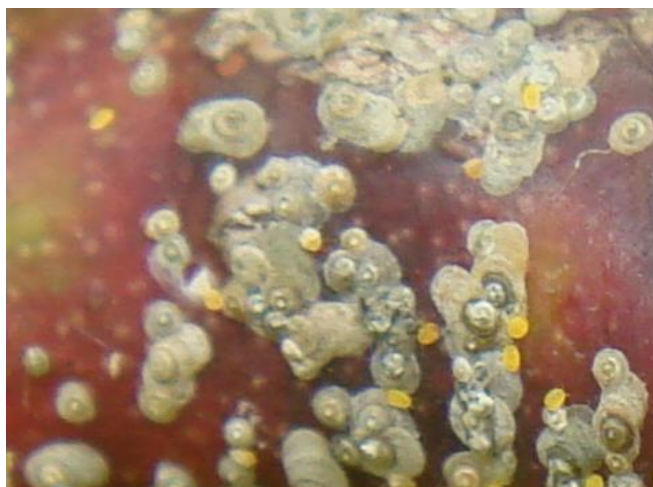


図3 ナシマルカイガラムシ雌成虫の介殻（灰白色）とふ化幼虫



図4 シロカイガラムシ類(白色)の寄生状況

※図1～3は県植物防疫協会提供。

2 シロカイガラムシ類

(1) 発生状況

令和7年10月上旬のモモにおけるシロカイガラムシ類の側枝寄生の発生ほ場割合は、福島地域では平年よりやや低く、伊達地域では平年並に高い状況でした（図5）。

また、農業総合センター内のウメ2樹において、ウメシロカイガラムシの歩行幼虫の発消長を調査した結果、9月に入り第3世代幼虫の発生が確認されました（図6）。従来、当県では5月（第1世代）と8月（第2世代）の2回発生と考えられていましたが、前年に引き続き、第3世代幼虫の発生が確認されました。発生世代数の増加により、越冬量が増えるおそれがありますので、今後、せん定作業時などに発生状況をよく確認しましょう。

(2) 防除対策

発生部位は見つけ次第、ワイヤーブラシなどで丁寧にこすり落としましょう。

本県病虫害防除指針や地域の防除暦を参考に、休眠期防除を徹底しましょう。

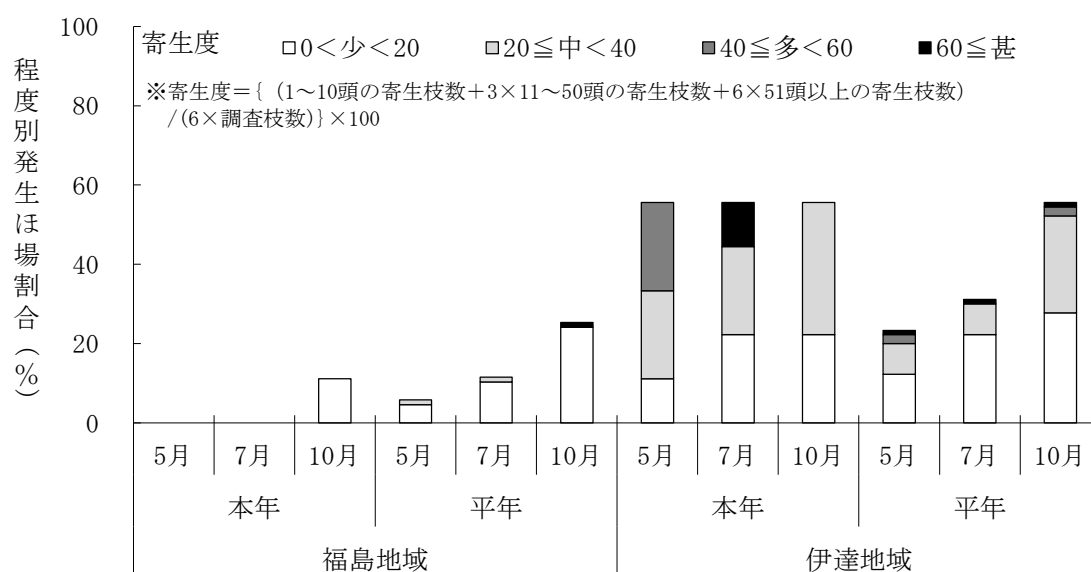


図5 モモの側枝におけるシロカイガラムシ類の寄生状況（10月上旬中旬）

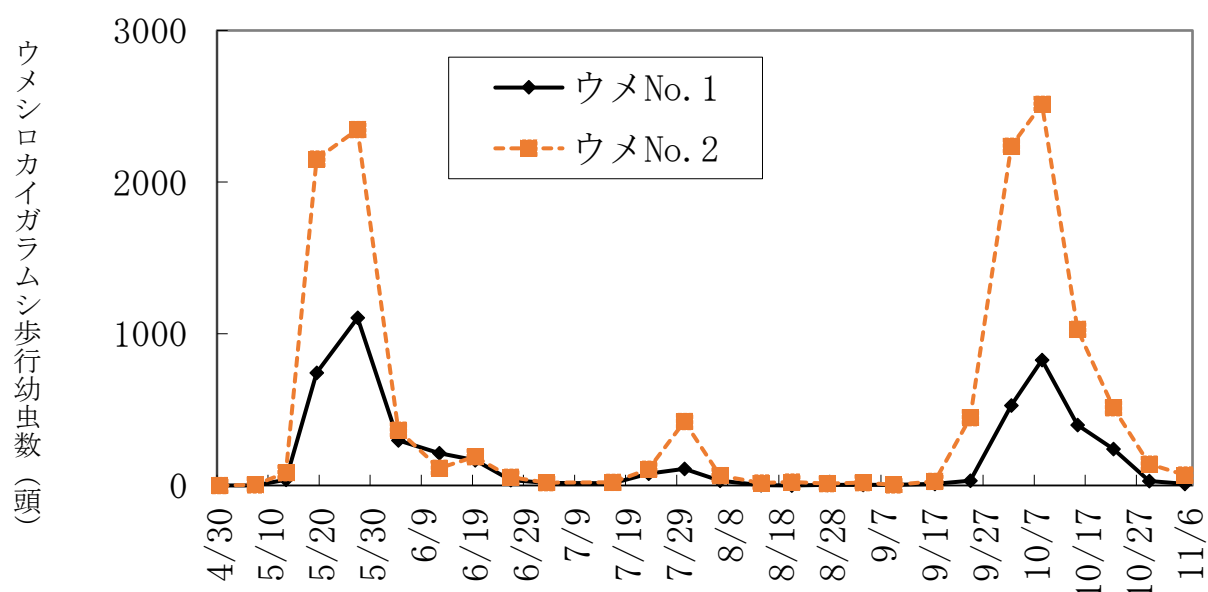


図6 ウメにおけるウメシロカイガラムシ歩行幼虫の発消長（郡山市）

● 情報内容への質問は、最寄りの農林事務所または福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病虫害防除所）まで御連絡ください。本情報は、病虫害防除所ホームページ（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）でもご覧になれます。TEL 024-958-1709